



中医学実践コース#25
テーマ「急性・慢性・滲出性中耳炎」

自己紹介



講師：河口あすか
三児の母
カメラマン／WEB関係



監修：神谷成美
二児の母
足つぼ・経筋施術そえる堂

現代医学から見た中耳炎

中耳炎とは、中耳に細菌やウイルスが感染し、炎症を起こしている状態です。
中耳炎では、「耳が痛い」「耳漏（耳垂れ）」「聞こえづらい」などの症状が代表的です。

中耳炎には幾つか種類があり、中でも小さいお子さまが起こす「急性中耳炎」が最も一般的です。それ以外にも「滲出性中耳炎」、「慢性中耳炎」、気管支喘息や好酸球性副鼻腔炎などの合併症として発症し、治りづらい「好酸球性中耳炎」などがあります。

また中耳炎はお子さまに多い病気として知られ、生後半年から2歳頃までが好発年齢とされます。

2歳を過ぎると罹患率は下がりますが、小学校低学年までに6~7割くらいのお子様が一度はかかると言われています。

引用 https://8700-cl.com/ent/otitis_media/

現代医学から見た急性中耳炎

急性中耳炎は、風邪をひいた際など鼻や喉の炎症に続いて起こるケースが多く、痛みや熱、耳漏（耳垂れ）などの症状が現れます。
特に子どもにみられることが多いです。これは、子どもは大人と比較すると耳管（耳と鼻をつなぐ管）が短くて太いことと咽頭までの傾斜が水平に近く、ウイルスや細菌が侵入しやすいためです。
特に乳児期の場合には、異常を上手く訴えることができないため、保護者の方は注意が必要です。

【症状】

疼くような耳の痛み、耳垂れ(耳漏)、聞こえにくくなる、発熱などの症状があります。
また、正常な鼓膜に対して赤く腫れ上がるのが特徴です。

【原因】

病原体(ウイルス、細菌など)が鼻やのどから耳管を通して中耳に入り込み、炎症を起こします。

【治療】

原因となっている細菌感染を解消する必要があります。基本的には抗生剤や痛み止めの処方、鼓膜の腫れがひどい、痛みが強い、高熱が続くなどの重症の場合は鼓膜切開により、耳に溜まっている膿を排出することにより、迅速に熱や痛みを軽減させます。

現代医学から見た滲出性中耳炎

鼓膜の奥にあたる中耳に滲出液という液体が溜まっている状態のことです。

急性中耳炎とは異なり、痛みを伴わないため、気付きにくいのが特徴です。

子どもの難聴の原因として最も多く、慢性化すると治りにくくなるため、注意が必要となります。

【症状】

急性中耳炎と違い、痛みや発熱などの症状はなく、難聴や耳閉感などの症状があります。

難聴の程度について軽い場合が多く、症状を自覚しにくく、受診が遅れてしまうことも少なくありません。

【原因】

鼓膜の奥に中耳腔に滲出液が溜まることによって炎症が起こる病気です。

急性中耳炎の後、滲出液が中耳に残ったままになって炎症を起こして滲出性中耳炎を発症することが多いです。

また稀ですが、アデノイド(鼻の奥の咽頭扁桃)が肥大することにより、引き起こされる場合もあります。

【治療】

症状がひどくない場合は、原因となっている疾患、アレルギー性鼻炎や副鼻腔炎、咽頭炎の治療を行いながら、経過を観察します。

改善が見られない場合、滲出液を排出するために鼓膜切開を行います。

鼓膜切開術でも改善しない、滲出性中耳炎を繰り返し発症する場合は、鼓膜チューブ挿入術により、中耳から膿、滲出液を排出させるための小さなチューブを鼓膜に設置し、数か月から2年留置します。

現代医学から見た慢性中耳炎

急性中耳炎や滲出性中耳炎が慢性化した状態の中耳炎です。

鼓膜に穴が空いた状態が継続し、耳漏(耳垂れ)を繰り返します。

慢性中耳炎では、聴力に関与する鼓膜や耳小骨に異常が生じるため、抗生物質の内服や点耳薬に加え、手術による外科処置の治療が必要となります。

【症状】

慢性中耳炎、急性中耳炎などで鼓膜に空いた穴が塞がらず、耳垂れを繰り返してしまう病気です。

真珠腫性中耳炎

鼓膜の一部が中耳に侵入し、デブリ(真珠腫塊)を形成する病気です。進行するとめまいや耳鳴り、顔面神経麻痺などの症状を起こします。

【治療】

耳垂れを止めるため、抗生物質や点耳薬の使用により、治療を行います。

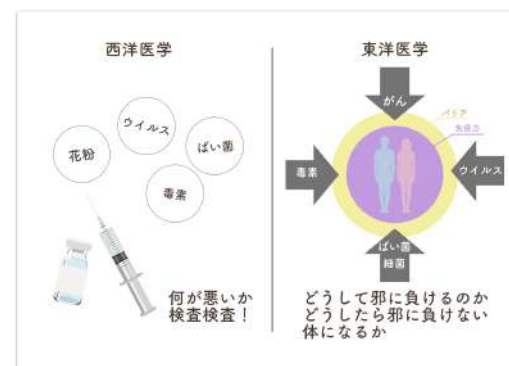
ただし空いた鼓膜の穴は自然に戻らないため、鼓膜の穴を塞ぐ根本的な治療には手術が必要となります。

鼓膜に空いた穴が小さければ、鼓膜形成術での対応が可能です。

中医学から見た中耳炎

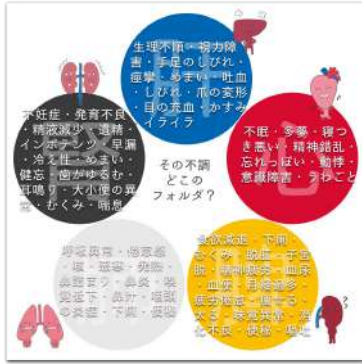
中医学は“原因”を探る医学

- 風邪の繰り返しやその他慢性疾患が原因
- 飲食不摂生や過労、過度の思慮などにより消化機能を損傷
- ストレスなど精神刺激により肝気鬱結→肝鬱が熱に変化して鼻に影響すると鼻炎になる
- 普段から甘いものや脂っこいものを偏食して体内にドロドロを発生させている



中医学は内側に原因を求める医学—扶正去邪(ふせいぎよじゃ)

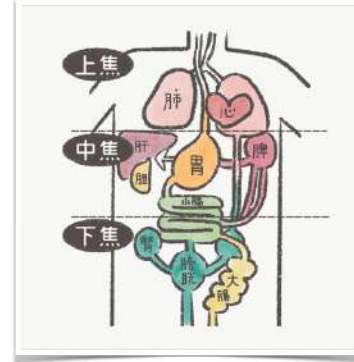
扶とは、助けるという意味で、正を助ける、つまりは人間がそもそも持っている「正気(しょうき)」いわゆる病氣と闘う力であったり、正常にしようと働く力「自然治癒力(しぜんちゆりょく)」を助ける事が病氣を治すと考える



体は全部繋がってる、と考える“五行論”

科目ごとに体を細分化していると、見えてこないことがある。

中耳炎は三焦（さんしょう）の病気



- 形のない、働きだけがある臓器です
- 全身の動きを統括する後天の原気の根本です
- 脳や中枢神経と深い関係があります
- 三焦は、上焦、中焦、下焦の三つに分類されます
- 三焦の中心は手少陽三焦経の原穴である陽池穴にあり、三焦の流れを円滑に巡らせる働きがあります

引用 臨床中医臟腑学



耳汁は食生活の通知表！

薬で止めても、生活が変わらないとね、

洗い物が大変な食べ物は、体の中でも大変なことになってる！



- カレー鍋、揚げ物、砂糖菓子...洗うのが大変なものは、お腹の中→排水溝的なところも大変！
- 洗い物が大変にならないような食生活の工夫が必要！
- カレー→ルーを使わない。揚げ物→オープンで油を落とす。お菓子→なるべく砂糖控えめのものを選ぶ&作る。

<p>【表裏】 病は体の浅いところにあるか？深いところにあるか？</p>	<p>【表】 中耳炎になってから数日～数週間</p>	<p>【裏】 中耳炎を繰り返している、発症してから長期間経過している</p>
<p>【寒熱】 熱が過剰か？冷えが過剰か？</p>	<p>【寒】 耳垂れが透明サラサラ、悪寒、発熱</p>	<p>【熱】 耳垂れが黄色ドロドロの膿、熱感、発熱</p>
<p>【虚实】 病気への抵抗力の有無は？</p>	<p>【虚】 老人のように熱を出ず体力はない、ダラダラ耳垂れが続くなど</p>	<p>【実】 激しい症状、痛み、発熱、抵抗力があって邪気と戦ってる状態</p>

風邪	かゆみ・筋肉の痙攣・しびれ・ふらつきなど
寒邪	悪寒・冷え・薄い鼻水・激しい痛みなど
暑邪	高熱・口渴・熱射病・日射病などによる
湿邪	重だるい・浮腫み・湿疹・水泡・水様便など
燥邪	鼻・口・喉の乾燥感・空咳など
火邪	高熱・顔面紅潮・目充血・口喉の湯き・イライラ

①風邪（風寒感冒）から来る中耳炎（急性中耳炎）

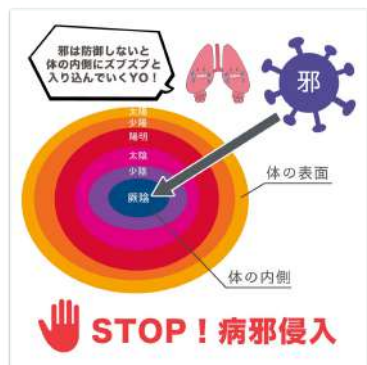


- **【主症状】** 症状が出て1～2日、初期耳痛、悪寒、発熱、頭痛、肩のコリ、サラサラの耳垂れ
- 要するに冷えて風邪をひいている状態！体を温める対処が必要。

①風邪（風寒感冒）タイプの漢方



- 風邪の引き始めは葛根湯！ゾクッとしてから12時間～24時間までの薬。
- 風邪の対処を理解すると、かかりにくくなる！
- 葛根湯を飲むと体がカッと暑くなって、邪を散らす。



【中医学的】病気の進行



中医学的病気のステージ

私たち母親にできることは、病気のステージを進めないこと！進んだら戻す術を知っておくこと！

痛みの正体—痛み止めは体にどう影響するのか？



- 「通じざればすなわち痛む」という中医学の格言がある。経路に気や血が滞りなく巡っていれば痛みは発生しない。
- 薬は強烈に冷やして止めることで痛みを麻痺させる。治療とは真逆の方向性なので使用は最小限で。

①風邪（風寒感冒）タイプのツボ—耳門（じもん）



- 三焦経路。寒い中外で遊んだり、耳から直接邪が入っちゃったような時に。

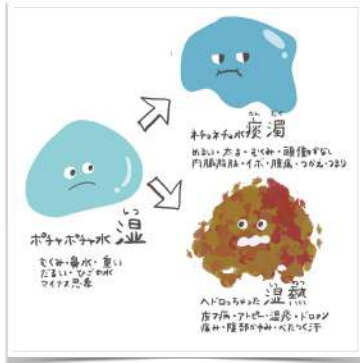
ツボってなあに？



ツボを刺激することで経路を流れる気を調整できる。

気の流れがスムーズになると、経路とつながる臓腑が活性化されて、体調が整う！

③痰湿タイプの中耳炎（慢性・滲出性中耳炎）

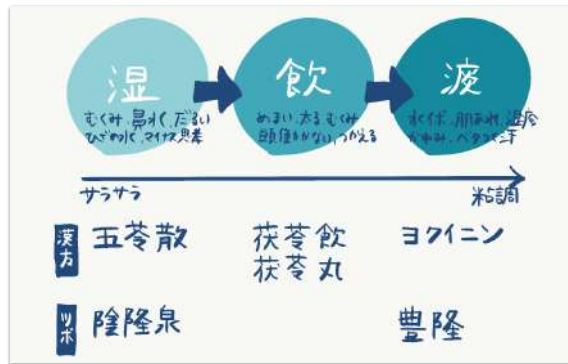


- 【主症状】耳痛、耳垂れが続く、耳の閉塞感、音がはっきり聞こえない
- 【伴う症状】頭重感（ずじゆうかん）、めまい、不眠、排便がスッキリと出ない

③痰湿タイプの中耳炎の漢方—五苓散（ごれいさん）



- 去湿剤
- サラサラした耳垂れに有効
- 低気圧で不調にも五苓散は◎
- 気圧の変化で頭痛、乗り物酔い、むくみなどに。



体の水分の粘度で対処が違う！

痰や膿が病理性生物だと思ってたら、こういう発想にはならない。

④肝胆湿熱タイプの中耳炎（慢性・滲出性中耳炎）



- 【主症状】耳の張った痛み、頭痛や眩暈、排膿
- 【伴う症状】顔面紅潮、口が苦い、咽頭部の乾燥感、イライラ、怒りっぽい、便秘、濃い尿
- 湿熱+肝胆のうの症状！

④肝胆湿熱タイプの漢方—竜胆瀉肝湯（りゅうたんしゃかんとう）



- 箱に書いてあるコトは全然違うけど、肝と胆のうの熱を冷ましてくれる！

④肝胆湿熱タイプの漢方—竹如温胆湯（ちくじょうたんとう）



- 清熱化痰剤
- 理気化痰（気を巡らせて余分な水分を取り除く）清胆和胃（胆のうの熱を冷まして胃を元気にする）

④肝胆湿熱タイプのツボ—太衝（たいしょう）



- 肝の原穴。旺盛な気血が巡るので、この名前に。頭痛、めまい、咽頭部の痛み、目が赤い、かんしゃく、月経不順などが主治

⑤腎虚タイプの中耳炎（慢性・滲出性中耳炎）



- 【主症状】 続く耳垂れ、耳痛、過労や夜間に悪くなる
- 【伴う症状】 めまい、腰のだるさ、遺精、不眠
- 子供でも腎が弱い子多数！

⑤腎虚タイプの中耳炎の漢方ー八味丸（はちみがん）



- 補陽剤
- 腰や膝がだるくて重い、腰痛、下腹部がひきつる、下半身の冷えやむくみ、尿量減少または多尿、排尿困難

⑤腎虚タイプの中耳炎の漢方ー牛車腎気丸（ごしゃじんきがん）



- 補陽剤
- 八味丸+五苓散
- 八味丸の症状+サラサラ水の停滞（むくみなど）

⑤腎虚タイプの中耳炎の漢方ー補中益気湯（ほちゅうえっきとう）



- 補気剤
- 元気がない、疲れやすい、動くと息切れがする、四肢がだるくて無力、物を言うのが億劫、立ちくらみ、頭痛、めまい、脱肛、子宮下垂、慢性の下痢、尿失禁、排尿困難、不正器出血
- 日本の漢方処方率No. 1

⑤腎虚タイプの中耳炎のツボー太溪（たいけい）をあたためる



- 腎の原穴！ココを冷やしていることは一つもない。
- 足首ウォーマー、カイロ、足湯などで温める！

中耳炎の薬膳一体の水がドロドロするものを減らす！



- いくらお医者さんに行っても内側からへドロを発生させていたらぜえったいに治らない！
- アイスクリームもNG！

朝からへドロの原料は取らない



- 朝7時～9時は胃の時間。寝ている間冷えて動きが鈍くなっている胃。
- さらに酷使するか、元気にするかはアナタ次第。
- 朝からパンにジャム、コーヒーは痰のモト。
- 朝はおかゆが超オススメ！

体力を増やせば色々良くなる一補 中益気湯・十全大補湯



- 要するに体力がないから病邪に負ける！
- 痰のモトを取ることをやめて、体力を増やす。



11/16(木)「じんましん～おしゃべり臓器、肝臓はじんましんで何を訴えている？」“たぶん、世界一笑いながら学べる”中医学実践コース
肝臓語を読めるようになると、蕁麻疹は出なくなる！



2024年1月～第6期スタート！お母さんのための家庭の医学最強版全9回“はじめての中医学”
家族の健康を守る方法は、中医学に詰まっていた！



2023年10月29日(日)はちおうじ会議
お呼びいただいたので中医学汁をいっぱい出してきます！